117
105
2

帝國圖書館
和書門
函架號
冊號
類別

丹鶴叢書

風葉和歌集 自六至十

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

風葉和歌集巻第六

冬

神な月のつごもりがたによめる

神のうへもしぐるゝ比にやありけむ

乃の字

たゆたひきのふの雪

生そこなひて都もよ人の神のうへ

たいしらに　あさぢ乃宮有文由依

いつもふくもる神な月をいとゝまれぬるかな

女のもとにまかりてあしたにつかはしける

このいまみの右大将

東京國立博物館圖書
故樋原芳堂氏納本
祀原家藏

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

神祭同しくれうをかく夜けさの秋をいつふらまし（いそ一本）

ものうくにつまをみるく侍るこ海をくれのちも

るくこの音きこひのこひくく

ふるあこ此ときもほをふくらく世の中はあさましよりも

神祭月つくころろうちふくをこし侍るふ

八まのきみ侍るやよの精そにおもろとめ

さへもこんもふ　みぬ草のんこ

秋そくはむこまさる本のもふ

右傳二條

同上　こ物語

いつくよの秋をゆさくん山ほの子をかくおをと

まいもくも　こくもか

秋そくものおふさそくこのそものむこ

ちくるる侍るふみちのちる我名ちち

あまやくもいた宇指望康

かふちくくるみちをハ都よ人のくなす言を

旧事ものこを乃井ふ

しくれの来ふのこ

を涼くそあもみちを変ぬるを侍るふ

かくれ月そもくするは女ようそもくる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

物語二上
百歩哥合七十歩

物語二

みとこころとゝまる時をたゝうおもふまでをせおそ
さわくるころ〳〵ほのおまこと一本ほのふそもそも於
さをるむく
うたゝねのさたいのめ
おこそぬしくまでつたく歌人のつらまてそ
我こゝのまこそにくるいろ〳〵をゆあく
をそるゝものをいゝ谷の女帝
る月のこゝぬむそのしれなもちく秋のぬをまゝらん
ものほしくるころ月のそうふかそくるとくし
くくそくく あくをそくるを深大物そ三名
むこゝめよ詠る月もそくるのいく時包にぬるく神のたよ

ふるこゝろ女のもこにまもりとくまふてくそ侍る
道よ月そくふねのた段た原
かそゝめ〳〵家のやとも雪おそえくそのせいもめる月ふ
たゝるみふせよすく侍るふのうはそし
くる
雪をそ〳〵称のあくむふるんふもそる風のそふふ
ふねをのうすみ川のそをよこまるく侍るのうち
杉風のこもよまふ心〳〵年そ巻くふるふん
そくそくそくそくそ侍るまそて
うその海堤集を言女

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

国諫下
ゐてうりぬるようさむもとやこけら（さ物語）
女のゆくおそつのちく
ゐのもとのくらもおふうなりと御らん
く
さこ
物語二上
百番哥合三番
ぬさこらのゑさくおろし
ゐこ
そのうつもむもし
女のもとうもこ
ゐこ

拾百哥合四十二番
女
女のみ
百番哥合七十六番
菊宴
（ら物語）
（小四上）
（冬四上）
惣角
大将

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

（俗角）
拾百哥合九十六番

おく
あくりよのおくもちくさいるる
女のゆくくてお
さよもちう友まよもるこそ
指ちくるまろ水
かくこの神ち
うもるこ有く
あくく池の

うちの井名
人のくやる
ころつ子鳥のまくやて
くその中将十首
くよなくよおやるく
とあまよやく
とむくの指井納
ふやや
あむ俗さろる女のむち
るのつひふとをうくや

くうんく
水のつよ糸もつるる球
代よ水鳥ものまおくを沸むを
うくさもむほくたほもちまれて

おやこの井乃内大臣

うたねのこふの神宮
そのうよかものこよ球
女三のこやのをみる
しまるに池よう
沸んよおほまもる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

物語二下
百番哥合七十六番

女のもとにまうでたるに女のいとくるしくて

そのまゝにしばしまどろみたるほどに

あるじのおとこのきたるけはひのするを

あやしくおもひてまどろめるまゝに

(小一本)
そのよもすがらおとこのものがたりするをきゝて

つぎの朝

ふかきよのゆめかうつゝかさだかにも

みしをもかへすよしのなきかな

ふるさとのみやこの砂つくりふるしたる人をめぬ事をあ

かなしきものは

人めもるつゝのそこのうき秋にそこなきみづの涙なりけり

女とおやのうせたるにものもとまりてなげきてよめる

なくなくもけふはかへりぬ

さてのちに

いつよをもむすびしことをけふあすの

をんなのうせたるのちに

ゆめもうつゝそうつゝともなし二のそこ

おちたる涙に袖よりはじめてそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

朝貞

水ぐきのいまのみやゆきおもかけの
八重ぬのその神ぐらを月なみよ

朝貞

秋深き詩なくさめをたづぬふ

むしのねもよわりはてたるよ

朝貞

水ぐきのいまのみやゆきおもかけの
八重ぬのその神ぐらを月なみよ

秋深き詩なくさめをたづぬふ

むしのねもよわりはてたるよ

朝貞

こけころもぬぎすてしよりたまくらの
たいしやうぐんのつきをみるかな

法師

ありあけのつきをみるにつけてこそ
うきよをすてしかひもありけれ

朝貞

こけころもぬぎすてしよりたまくらの
たいしやうぐんのつきをみるかな

法師

ありあけのつきをみるにつけてこそ
うきよをすてしかひもありけれ

六番 左勝

朝貞

こけころもぬぎすてしよりたまくらの
たいしやうぐんのつきをみるかな

法師

ありあけのつきをみるにつけてこそ
うきよをすてしかひもありけれ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

ほむ母もえすさやめよ

物語二下
百番哥合七十八番
女のもとふ小物語
さそ四上
よく侍る　おやこ乃中の内大臣
ひとり松のよ我をねる淋しさよこそさるかうきの社
あをちのまゆみめつらしきものこらの内の
夕ちの左大臣
女のけはもろるこのうらめやとも二本
こそのあうの名そみるく侍るよまろう一本

めつらしきものの内のおりつるさそ侍るふ
まことふおきた二本
一のこと公そて
むのうちからいよく実さそて張やむをふまるの雑
ちのいきるをそこ乃ままむ人ふ
くつろくふくろのうちあふ
つまそて馬とうち
五をち

大納言典侍
侍る

ゝこのさる山もとの衣めつゝ
ゝくさまのそのきの
ゝまよ音ゝてまあの
ゝうち
ゝたくさに

総角

あゝれるこゝろのさまの歌ゝまあ

八物語

ゝ花のつゝむゝくゝ出
ゝものよゝまあひくゝなゝ
あゝ花ふるこゝろのさゝいのゝ
女ゝゆくゝゝくゝまあ

十二本

ゝゝゝ

めもあまぬの衣大尽

山深くなる神あそびやそしまあそを

よろ〳〵山よりつゝみ侍るところのあるさ

さて

源氏

物語四 そこりつ物語

あやぬめもよ〳〵かの山よりもふこ 同上 人めやたえんとそ

ふる人よりみ侍る人よりまる

同上

さえかつらいやまさきもめやよ山のをのふそと

大納言もちの七夕かの屋風よ山よりもふく

ふるもある法よみ人〳〵次

落久保物語三

ふかくつりくのち山里よふる人のなさ

をのあまをふあまをれとふ我おそ云のあま

たよりくるものふ ふさ

道ふるこやうむふるやを衣ささまれ

ふるをのさの衣よさまれいるる人の誰ともつむ

井文のをあくおまをまくく我六条院よる

しさくむよひるふをくふ法

もふやうなむ日まくいのたおほつまる

むくめ乃とよ中 侍一本

あの〳〵のう人

薄雲

ふふくふのさ ミち物語

よしの山よく雪のふる日よまをれる

ふるさとゝなる人あらじとひとまつ秋もくやしき法るらめ

おなし山よすてこゝにんほそこのとくるふよめる

たもつの佛名甲斐

物語四

ゝゝの郡のうちふも住ひぬいつまの山とくたつ称む

拾百番合三十五番

女のゆくゝゝ日むゝゝるのめゝゝかゝゝるの水れ

ゐめつゝゝもゝゝそ

旧事あつゝも弁ふ

ゆゝのゝゝ水の法号

ゝゝのいゝゝほをむすゝほしむゝふ事の侵ゝ（て本）

ないゝのゝゝさまゝゝ侍る法事のあゝゝ

つゝゝを拾る　おゝ

表ゝゝ思ひおゝをよかゝゝゝゝ事もゝゝ日るをのゝゝ

新大納言ゝゝの朱雀院号

をのふる日法ゝゝゝを拾る

ゐゝゝゝゝ

この御ふねをもとゝめ
まつるとてこゝかしこにもゝしきをたてゝよめ
る
新大納言
むらさきをそめほの山のこゝろまでもしたふ
ものとは
六条院太政大臣ふぢはらのもろすけ
のかきまつのうまつるまつの
き有明もものいみのよそをかさ
も侍らさわくふきをくれ一そくをまねて
冷泉院御ふね
のふるき法をもとふるよ

行幸
百番哥合九十九番

同上
御ふねの
六条院
をしほやきつもる松ふるさとやふかうらん
をのうちよりをとつのうちとよめる大臣
うちとけてとつのうちとよめる人をいさりて
えもいはぬをくれ井の枝よりたれて
きをとる
さ夜の
物語二下 三百

推本
百番哥合七十八番

百番哥合九十七番

海べ　亀洗

同上
まのよもちかまたのむしん井のそこのもくづ百
同部合廿八番
おもひおこなひこひ侍るこころ弁ておもてまもる
こころをのこころもふるそもつきうきよ名のこつもる日をかな
なにもこれこそおもふこころのもとにをのある日つもる
ふるふ侍る女のまゆ墨
まきこ侍る風の宇相中将

菊宴
かくて初る仏の教おもひこころ
ひとりや物語　さ四五
しるる江
実相寺の住
同上
よ世のまこころもち初重我為をとくよふをぬる
さうの池のさいの文の海風よ仏名
春そのいのちもち侍る
海の亀
幻
六条池亭会
仏名おこなひこころ
佛名
さむしやと思ひそやもこを侍るさ山のほまのをのくさを
本ノ

風雲私記巻之第七

神祇

ちはやぶる神代もきかず龍田川
からくれなゐに水くゝるとは

これは在原業平朝臣の詠るとおぼ
ほむくもつよふ〳〵おぼつかなき
神代とはいひながらせめてかの神
やすみる我をつくりたまひし神
御名のもち乃御祝宮ゐやしろ
さゝもろ礼ハ冥加春ゑめまよ住るもとゝ勅
使よりつゝしてうけたまはるうや

のわが住るそよきくまものゆゑはさてもまものと
くるともむ

やそふこめそくもつる梅ことと
住そくかそてきらよおはそる

いそこのみ

物語下
ゆくへのたのそれくる石こつなれせのもそうる
そそてんようをけそこそうよく神そる
同上
愛そうおいおさくるむろおもそ玉そくん
物語二下
神やうそめ(その物語)そ球ようるおはそるき
おもちさこうものほ氏文内くそまむ

そのいくるか塚川流のそ
まつそくるもん
人そをいそうめそ一さそ年そふ
おそそそそ一この内大居さいのまちて
そそよおそれそ拾そうるいのふ
こそそそくくようそ毒るよかる歳な
そくさそ年よつるそるようかれうるもん
そそのなる花いそあそのおもそ四日のようそ
こそそのそいのそとおはめなそ一球
くそそ一くそはそくそ宇相のそそものまう

物語
あさましくてやみぬるもの
おもひもかけぬ風よりまたなくおもふ人の病
さもをこがましくうつくしげなる女の泣入たる
侍るまゝにいとゝこゝろもとなくいとほしきる
人のはてまでいるゝもの
わかのめもさましなどせをまつ夜のさまも
こまやかなるつゝみのおの衾白妙などおくかう
世ぢかくむつまじき人などのうちふし侍るもと
ふ侍るまでかきまさぐりなどしてふまゝ

物語中
なつのほどもさこもをしきたる
こまもまつのえの
のそへ侍のひまつさし侍る時いさゝかくも
世のこゝろもなきものゝうへ
まもりもくわれ
馬どもまでつのそ
くもるもよまそ
たゞまゐて物申さんとてあのつさうふうち
申るゆめよふものさ
くるゝもん

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

我るふまでる神のおつかを
やそこふまでくよみ侍る
をそこ
ちひおそ神のくをたのむ人の人よおめるまかて
女一ゑ高洗よるるつる
とおそそくよるをおらくる
秋のまのことのぬまのおそ
ゆつそそもひやるんとうの
かう成の洗そよくこむ
さそそこまのそてをる人おそせ

くる洗のう色一おる
かるちよそそこまそ新
洗もおそくまのせひ
そをおくよるせのは
風よ
ふそそれうゆまそ
かものうそるこそ乃
さそよ力そまのそ
よう一も侍そ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

さゝぬもその匂ひもなくなりぬるを人のとがめ
ぬるこそいとゞあはれなりけれ
物語三下
かくてうき世もてちもん（て物語）
六条院すまふうつろひ給ふ
ふまでもよさふらふかぎり
ものやうとのまでも
さこそ
物語三下
かくてうき世もてちもん（て物語）
六条院すまふうつろひ給ふ
ふまでもよさふらふかぎり
ものやうとのまでも

同上
ふくと世をそそつのるこゝろの
同哥合四十五番
今戸つゝのこのむもあふ
けるそそかとのう

須广
百番哥合八十七番
やそそまのおふ
神まもるとや
同上
ふくと世をそそつのるこゝろの神まもるらん名と
同哥合四十五番
今戸つゝのこのむもあふ
けるそそかとのう

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

物語四下の物語

藤原君

若菜下

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

若菜下　のこ物語
すゑつ[illegible]の初よみおくおも
六条院内大臣もまた
たまひてさを始こと
ものしてくらしつゝも侍る

冷標
拾百哥合六十三番
すゑよ[illegible]の神もる[illegible]

てよみ侍る　このいま
もるあるとたのむ八侍よ
みのかてる月の中納
つもむすみよ[illegible]の初
住よ[illegible]の神もる[illegible]
このひの五つ[illegible]
まつてよめる　おまひ
いのそうを神のんもすみぬ
立そのまもむめをみ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

少女
百番哥合四十一番

夕霧の
おもかはらむとちぎりおきし
のこころ残をとて内侍所のおほめすら母
ももおそろしくて女もみの左大将
神もきよかるおもひもむすひ
すもふくやよいの浅いまもちよいとてとる
日浦もくもせのうち
六条院

須广
百番哥合八十八番

やほよろつ神も哀とおもふらん
おをるつみのそれかれ

物語三下
百番哥合八十八番

こころこそ
高洲のこころの白もくに法をとく
法くいとのりくもちくおもおおそろうものこかの浦の
さこそ
まくらよおもひまくらるるもこころ浦
まちくもくわ浦ろ
(これより下は源氏物語)

物語四上

神もおもとのくらのつまみよこの世のこころ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

釋教

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

あふことかたてる木まもそてくとる
すゑのものうらの中ふ方便品をく人敬礼乃
至以一華供養於画像漸見多数佛
佛をおくる事ひとへに一ふさかたの行をとる者ともる
人記品
うれてふさ山人のうもれ木よ思ふ
釈持品
くもの宮へてくやまぬよふゆる人のこゝろみつもる
神力品
いひおきしこのまゝ残さしもくなん改のうこよものや

院のふさん清経ちやうもんくく侍るよう
くのこゝふまふこゝ人のもの侍るとて
おまのもとの沈釈中将
水のあうのこゝともちる世残いこととるはそれよ
三アんのこのとてふさもくおもんて
ふこのめ小の冷泉院女一宮
添のこゝろる袂よかこゝよまろるものゝをやふさむ
女院の御こふおもちのこゝろもちるよう侍るよ
いのこの侍のこ人有病おもと経とふてま
をゝむとゆく いそて志こ二条院内大臣

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

（二本）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

物語三下

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

風雅和歌集卷第八

敬公

神祇のをくおそれつゝしむもの
ものゝさやけきこゝろをたゝ
よめる

源氏のさゝのみのみ

松風
ひさしきをはるよいのるかみ
おなじ神にこゝろをかけて

薄雲
まことはるかにいのるかみ
我さゝるをもむくやと

一の一

伊勢
ゆるすよよめる　よみ人しらず
思ふこゝろまことあるひめ松
よゝをへてふるかひある神
ちかみこゝろをたてゝ祈る

物語四
に物語
ほとゝぎす
ふたつの人ゆきまもるまに
すゝきにつゝむ
ようもなくおそろしきまで
二条院讃岐

須广
拾百哥合八十六番
君ゆゑとこそ

むさし野
同上
かの上にて
同上
いける世のそらねをして
百番哥合四十六番
中納言ろこう
ろ月にあこがれ
そのまゝ
六条院
同上
をしぬいのちょうくつのまゝ
同上
いつまでか浪かぜまくらに出んみの
同上
清ろの亀ー
ろこのさゝの山を見いて我も
ろ筏うちて君を庵のそ
ろるよろこびのよろこびまた
よみ侍る
物語上
ろよろや月日のうるをもふ
同一きむかの宇相よ
かむなら
同上
ろろこのちへのあまのふたゝへやる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ゐつこふつてるとて道よす女のまとよつつ
ゐる　　ままつ川の中納言
かさ彩りんこととくやこかく衣社のこぬるつまと旅ろう
うへ　　山の僧正の母
うく衣こともる仏ち我のこともそうむる社もこ呆ぬつさ
すまひの云ささて法くまつとそうむて
教なぬ当こゆともちこうぬんそそよたちもこ陸と
かる　　右中将

ぐもむるもんふこぬおちたハ好なもけてこむのるつさ
おるむとも又のうるるこよるあまく
教そまこん秋の宮まそもおそつのむそ侍そるつさ（八一本）
うる　　源理亮
中ふ教の月をこあてハんつまれてなのもんむ
石山よいもむとこ侍るおつさ女よ
くこむこふ扇こをハこあてめるおの陣こ乃月
あへ　　八こ二品文中納言
うつこもひをもそハ成おつさやおるつさ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

もろこしよりかよふふねのくちのつ
おくかぜにたちまちてきてあみつつもとまる
てよりめる　はのまつの井納言
物語二　おもひのこすこの袖と思ふよりなく名だつ紅こ
同上　うの雪　もろこしの宰相
拾百哥合三十三番　おもひなきこのさいめ我へさきふ夫をこふらく
物語上　おもふことをはらしおもふことのほるとく
よみまそかる　まつかぜの大将みや
志ろしろれよそふるつゆをいろもやこの松ちるらん
うの雪　あしかりのこと

同上　いのちなるよのつねのむらさきはおもふ
手ならまきこをいろ
はらくる　まつかぜ
物語下　秋をのみむらさきにそらくる
（一本）　うの雪
同上　ゆく舟のあとをかの秋の風ぬるくよ
はらくよそる人よみそのの井之
おもひ
物語下　もしもものくちなるおもひを我らくおもはれぬ
（一本）
かく
大納言の母之

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

同上

身をこころくだきそこなふ勿れ
きよらかに人にまじはりてこころくるしむ勿れ
その初日ひよう本のごとく信ずべし
中納言
吹上ノ上
うつくしいぬなつるもものやうに美しく人のわれゆるすべし
高名をきこえるひめとさうしのごとくよのをとこ
くる　ひるのみその浄衣
なでふ法のをしへをまもりてをまもるべきのみその浄衣
こやつへまもるべきものぞ信ずるよう孫のふるまひそ
こまものうく信ずべくそ

拾百哥合九十五番

女御更衣のすゝ信ずる法をほうくうろたへそ
なき人のこゝろみとゝる高名をきこえるべし
ここのゝそれるさまふ信ずべきをほう本
ここかの我ここのいもうとある人よ
ゆめちよたちのうるさきをいとゝ納言女
りきをよたちのうるさきをいとゝ納言女
この面
寒泊のむすめ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ちとをもてすもつきおとこ云ふれるるとの名かなひもおもふ
たたねまのつゆにはもるとも伊勢
くかつるとてよめる 女すこ
云をおもてかつぬきしのやよ
んほそおもえくるころすこ人
こと
風とまつなの、のちにそらぬきを川の今こ一ふし中幼ら
きこともおりまに居てつきからを祝のとき礼なるとも
そさをるふよそ 風ふ
物語
かうこ祝と思ふこさこさこさこさこさこさこさこさこさこさ

宇治よすこ伊勢ふんなこさこさこさこさ
宇治よすこ伊勢のちにそらぬきを川の左右
いのちとそのまつとふこさこさこさこさこさこさこさこさこさこさ
芳きとをおもてかつぬきしのやよ
ふるふよそ
ふんほそおもえくるころすこ人
こと
あるをんとこぬきれをおもてかつぬきしのやよ
ちた、ふよそ
めぬてよめる つゆのやふの程大納言
りまのさこぬきれをおもてかつぬきしのやよ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

つまもるのみそる女のはらう
くかまくら山のうらをつうあ
をとこのうちあてをつのそふと

いまあ
かまくらもゆる思ひもひとつにて我
うねのさうあくみそのうる
そのつかいそるも思そもあ
天の返あるくのそ
くすりたてまつるとく

なく

物語
くふくあまのそ衣そるをうのうやめ
清の滝

同上
あつその滝まうふ我为ふ思ふ
とく帝のくまのこのうそ
をそそふのふ
となむ

羇旅
あふさそゆそよ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

うへ一

拾遺

もろともにたのもし柿をよそにのみ
いそのかみふるの住まひ
こよみ待つる　よその冬人
まろこそ秋のしるしもぬるすれ
おつもの人まろこる時
好まのこと信申る
柿毎よおこれるまろしのも
よみひらく次

あかあるる猿のおこのそうも
きむ人のもゆふれの秋風
いろ
あさほらくゆうるるもとも
拾百哥合八十九番
石ふまてるふまの
風よ
又こそむくよもるまも坂の冬

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

吹上ノ上

一本菊物語中

（物語）

明石

拾百骨合三十一番

くるころかの女のもとふけゆく
　　きつ秋の入道太政大臣
しのぶねるみ一社の深よもいとく
父よくはらくちつよるほとを
あらしきこるよくうるも
よくるふこをやくひとも
玉葛　源氏のさ乃小弐女
ふるくもまれをまとおほまのうら
つくよのるるくく
玉のうてのの侍

同上
りさともこぬおそ夏もく風
まろうくるるるくく
　松浦文集後氏九
物語上
又物語
天のふおこうはあいよかまあ
　集あ信寒九
同上
かるるこの山の月秋八毎の
よの井いつきこもあるくからいる
くもちつきれるこちよくある
　ゆくちの字お中お
ふく秋ぬまい秋のちにを毎を侍るのそも

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

物語一
拾百哥合北一番

物語一

物語中

風葉和歌集巻第九

哀傷

ちくみこのころひとおもほしくさ年もたち
うち侍よるまゝ六いとゞ月日つゝ
いとゞまたくれもとのつるらん月日つゝ
おりしころ后宮かくれさせ給ふる
寂蓮
あくまるもちよはたゞもすぎ海の神よ雲のそなたの
母のおもひよ侍らくるこゝろ梅壺のこゝちいの
おりろさをうんくよりよめる

志もまもりの枝もこえぬいま
寂蓮中文のそよおく
板のふよはたくさ
やそ
おくれてくる人のやをとゞもの宮雅度か納言
うまき木の指夫幼ふ
くるやおのさくのいもおりろ残く

拾来
白ひ物語
ゆあれふらぬそよさ
やまむのはたくろまち

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

のさうを洗らんするもあ
ほめ出しなどをこと
万せとたのみきこゆ
洗うの雨
うら枝のふかひもうくぬ
さうの花のうまさをの
のおきまの雨よ。（脱文アルベシ）
さうりうくまもと

九之二

幻
百番哥合六十三番
くいふくあくやさうあ
かき木の枝を納
のくさよむろよか
くく
拍木
木のもとよぬきさ
同上
うめやまの衣れ
さうの花うまをす
一をせくふとを
花よくくふとを

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

御法
ちくの村さくさのそさぬまそふ神よおるそそたるふ物語百
百番哥合六十六番
一条院そまさきを持つ
品ふそふくれ
むもまし
あるそやくんの清そそ
江嶺夜女浄見つひ侍
あてをなしる 神ぬ
こまくへそのふまてそまとも
宮方あるかなほ女
大弐

大弐
おるる
有しよのそたのおほいまちそそこるそ男
たのおほいまちそそこるそも清ぬつ
侍る人のもよあそちよはくもる
うつくのきた弐小方
ちくのこやあそちふをふつもふ
うるもおそむくよ
橋右大弐

付上
人いそうれ(その一本)ぶたのおそてお
清そちそおほそさを持くよ女浄よ

のこまをとる　女まこの名を帝うく

はるもおくるゝあきもかすみこめ

秋さめの乃ふ

まき秋とも名ある雨のもすそ

白たへの袖の名所のまき

帝うくまるうくもの

もみぢ秋うんまほ

うんくおくまふ

入日岡白菊

百番哥合五十四番

桐壺

そのうへも涙よくもる秋の月　源氏物語百

ふるさとの荒たる

秋ふくまふもまふ

衣うよくをうの

花大臣

つてこの名をや秋と名おふさめん

さうつの更衣

あるをお

さうの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

八月十あるこ信中ねのそよおそく侍る

一めくるまて　なをし侍んとも

　　うやうやしくとをとのたね

かこちあくるかとし秋のおそくこそ月日之

字治のおねさのいとみよこもくく侍るよ月

くまもうとくる秋よめる

　　のぬし

徳角

おくまてこそ月をもてふつひよすむこそ岩ねの

しのをくのふるき侍る女のあ〳〵もるよくるあと

まもおこつくるよむ

　　のふさけみたて

かこちあくるかとし秋をおふ〳〵もる三のこと

女のもとよ侍るとふ哥をくること

のこともこころひとをいふ

　　ふの月

おふ〳〵秋をもるいむのこと

中納言為家ねのよおのよ今の雪や岩こと

ゆくふこそのまよくまこと

十月つこもの坊の沸ぬ侍ふ乃

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

やまひくようとうあかるとそものむくをと
こよゐ侍るる　やこのうつの大納言更衣
生のめもこのをとよりやすかのはのうきせをごそむ斗そ
ふちのきよおほえそてかれ行よしく
てのまくるあみこよかうらをとゝ侍る
風よりをおさの次第ハ一条天
おこうをゝいしひをのおもふもちんせのちこそるよ
皇后宮よいさこのちつこさまるみるまこそしうか
まおほいてまと御こまるまこえなくて
みそうつのえ大納

くくこそれいつかなひんろのやそのそら成をみよ
このをのほうもちをおそおそ枝と思らんやと
ト侍るくよ　まこつのたちねのむちめ
ふつをむくををもぬてろの雪をおくれやや
女のひくをもぬとおりなくる
まそるくちをくろのをす
みそをそこのちをのそ
ゐふく
よるくはおもものこをよそ枝めるをといをん
中納言のよう侍るもくや

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

葵

同上
百首哥合六十首

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

ことこのやうよ侍るふ

宇治のまゐ矢

椎本
百番哥合八十九番
もろくる神とて秀のやうやうて我名を文よおさ伝おこと
せちよ云ひくる女のうをそ侍るのちもとんの
きぬの侍るを頭侍るよもんとよ侍るよ浅の
うわくるふやものつくるる侍るく
ここ中の扉口
浪よふこころもの包もかつとそちおくやそくあるそ
入を指改まわくるに指大納のまふつ八
しくる 家のやうれ中お内侍

思ひやる神くよいまふくぬよ
名のとのなくなわくるに十九日のまそ侍る
下うちまつまくのさ法くる

物語
うく衣そその山路をそつ
父のまくぬさ侍くめる

そみ
おさぬくふその袂もそよくあるそ
芸のうくまそ侍る一めくるとのをそふまよ
そくよさ法くそうる

幻

そこなる淺ましきものもありかくものと物語
まことを語らんくく

我のの淨き

同上

人こゝなる我君もまゐりおはしぬるあこゝち
ーのくく内侍殿のいろくく侍るをそもぬさ侍てよめる
かきもあれ我君を淨るそかふりし
中務のくく君まろくくのちむものまゝつの
きーこゝる

さうの改革

いふくくそこそこゝものこゝろ
前の内のくくまゐりて
ふくひのくくさかろくしくれは中ゝをゝ侍るを
いとくくの
いもるゝ君のくくようくくやを
父のたのおたいまうちくくて
ゝのくくをそこゝまあれもの系をあこ
もゝこ侍くくのちおほむ事ゝ
をゝくくる淨をまゐる

うの室雅俊女淨

国譲上

藤末葉

東屋

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

忠コソ
年ふれとつきせぬ人の行末をそ
ひとりもなけ

賀

今上一宮うまれさせ給ふとて
ちとせの御そでにしるきこそ侍る

おやこの年の春を女院

兔公の岩根のこ松おひそめて
いくよのうまれさせ給ふらむ

蔵冠上
ちとせまつおなじ日ふかき
ちとせまつ

くる

天母のみそせのもとめくもむちぬうまの未若流津守
皇后ふくまれるの一首をけるつのまんとうたん
きぬのよむすひつくさ鶏の毛衣ふ
くさみのよなきむほこ我もちむよ倭つくる沖
うの毎
まるまのおちの羽ふ毎
出てもちくさみるよまもむ鶏のこの毛の羽もそのくさん
宇治入道寒ひむもちちの矢ーるひく
凡ふつまちおさの女池
天母を打百世といのるんまおんなくさのさわーーるとん

大納言まてよちの七十かえのはふのくく
やそさ我こえよこそれる杖
ちこのいの神のひまもあくまてくはるるまみて侍
くる
おくーおひのふまの杖をなめまくも毛の神のひまれもふん
侍従のめのと
くみういうよもちもためしのれもむんとうん
さうの虎のきさいのまのこ中矢ふ月のおよ我ふ女
一のこさてまつるひるふ沖のさ小杉の枝ふ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

菊宴
おのれをよそにくらしつゝ
いぬるやのもるおもねまも
あもちほりの女郎よつゝ
おもひ
藏冠下
一方ならぬ仁寄友女郎
物語
ふる柴戸よりもちよみちの
とうつゝのふしてまつるとてよみ侍る
まもるつの当侍
若菜上
ひのそさひのくの山村をいつまでも
ひのそさひのくの山村をいつまでも
のちくらしつゝ
いそしおさゝんもちつゝ
ひしよのこと思ひそゝくる
のちくらしつゝ
いそしおさゝんもちつゝ
ひしよのこと思ひそゝくる
ひのそさひのくの山村をいつまでも
ひのそさひのくの山村をいつまでも
ひのそさひのくの山村をいつまでも

吹上上
後のもかきをる事ならんとおもふ
同上
まろもしかく事をへて後のふる松の事のみ
やまひ日ころ治をへ後の世の事ともを
思ふ外のものまの後松よのつねなく
ありぬふてとれおもよみ侍ふる
松も松をもふるさぬやまも
うちのおく

神祇伯顕仲卿
家

二首
ちぬいまのまの事なり
六条院御元服の
き事ものを御清
ささの庭の清
いくおもとものまも
うちの内をきをもふ

桐壺

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

堤中納言

初秋二

同上

吹上下 ナシ物語

[illegible]のそのよいそのようにてもあしそうなのことより世をのがれ
おのつよきこころかたくおもひとりたる秋の陽光院のころ
えんせきを始められるころのよりこのかのころ
きくを　よみ人しらず 称
[illegible]もみてそゝゐる菊のうら葉
九月ばかり秋の[illegible]人のまうでたりしに
我ならぬ人もこの秋ながらへて秋の数そふるわが身
さうの院のみ子御息所の后宮やう
さいそくのいとちかくなりぬるふ

おまのもとの院[illegible]
[illegible]ゆくるのつらさまでこの人やうつむ
さうの院[illegible]
めぐりきいそのまあらそひとしてふる秋をあまた
事なの詩のふみ月おりてうき君人
詩なとをけるはてよまを始める
さわてまこの事院[illegible]
やもの月のひかりゆるぶせもむてやのまに
たゝ
すみてる月のひかりも[illegible]年のけをあくく

たた弁

藤原君
[illegible]

同上
[illegible]

田崔村鳥
[illegible]

朱雀院御うた

[illegible]

同上
[illegible]

蔵冠上
[illegible]

祭使
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

（ちのまゝめのくさゆりと一本）

入道左大臣

菊宴

物語下

同上

同上

117
105
2

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用